

# アヤと過ごすジイジの日記 心のめばえ

<11>

著者／牟田 泰三  
挿絵／橋本 礼子

3歳8カ月

淋しいね

アヤがママに連れられて米子の親戚の家にお泊まりに行くことになった。「アヤがいないと淋しいな。」

と言ったら黙って聞いている。ジイジの言葉の意味は分かっているのかな。

アヤは近くの公園にある滑り台が大好きで、よく滑りに行く。この滑り台はジャングルジムの一部になっていて、他にも雲梯(ぶら下がって前進する遊具)やネット渡り(綱の上を渡る遊具)などもついている。ネット渡りも、三ヶ月ぐらい前まではジイジかバアバが横で手助けしてやらなければ渡ることができなかったけれど、いまは自分一人でちゃんと渡りきることができ

る。

先日公園に行ったら、アヤがこの綱の上を渡り始めた。それを下で見ているなら、

「ジイジも一緒に渡って。」

と言った。

「アヤはもう自分で渡れるようになったんだから、ジイジがいなくても大丈夫でしょ。」

と言った。

「駄目、淋しいんだから。」

こんな場面で『淋しい』という言葉を使うのには「瞬虚を突かれた気がしたけど、『淋しい』の意味を正しく理解して、この言葉を的確に使っているのには驚いた。

幼児が言葉を覚え、理解し、活用する、そのスピードには驚くことが多い。こうして、「所懸

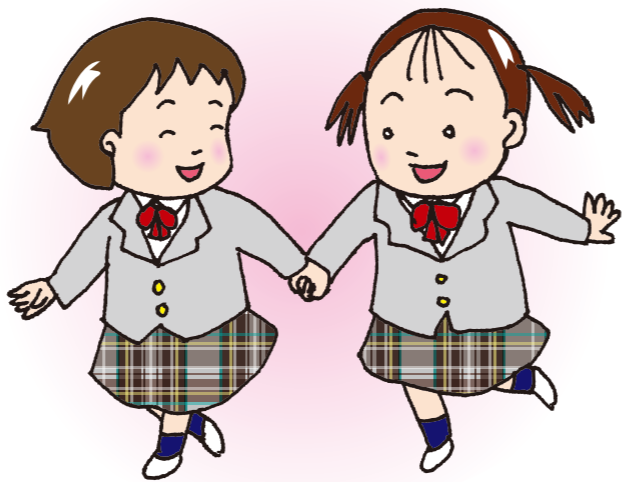
命人間社会に順応している」として聞いているのだろうか。

3歳9カ月

幼稚園

アヤはこの4月から西条幼稚園に行くようになった。年少部のうさぎ組だ。

これまでは、主として家族の中で自由気ままに育ってきたのが、月曜日から金曜日まで、毎朝、汽車ぼつぼの形をした送り迎えのバスに乗って幼稚園に行く。園児達、特に年少組の幼児達は、まだ家庭生活から抜けきれないくらい、わがまま一杯だから、とても団体行動どころではない。



幼稚園ではとてもいい保育システムが組まれている。この幼児達をうまく導いていてほしい。先生方の大変なご苦労には脱帽である。こうして、アヤも集団生活を学んでいくのだと思う。

でも、ジイジとしては、なぜか淋しい気もする。幼稚園で受ける教育のおかげで人間社会の一員としての正しい第一歩が踏み出せるのであるが、その一方で、家庭内で自由奔放に振る舞って独創的な考えでジイジを驚かせていたアヤがだんだんと影を潜めて、標準的な人間に近付いていくのが、どこか淋しいのである。

これはきつとジイジのわがままなのだろう。

ジイジの  
気付き



外の世界とのつながりが心の成長を加速させる。

プロフィール むたたいぞう 1937年、福岡県生まれ。九州大学理学部卒業、東京大学大学院物理学専攻修了、理学博士。京都大学助手・助教授、広島大学教授・学長、福山大学学長などを歴任。主な著書に「語り継ぎたい湯川秀樹のことば」(丸善出版)、「電磁力学」(岩波書店)、「量子力学」(裳華屋など)がある。東広島市在住。

ジイジへのお便り

エッセーを読んだ感想などを、お寄せください。  
weekly@pressnet.co.jp  
「心のめばえ」係へ